



目 次

学会誌編集の雑感.....	平澤 忠.....	1-3
貴重資料紹介 そのX 古医書に見る医学史5.....	戸出 一郎.....	4-9
新刊アラカルト.....		10-11
図書館だより.....		12

学 会 誌 編 集 の 雑 感

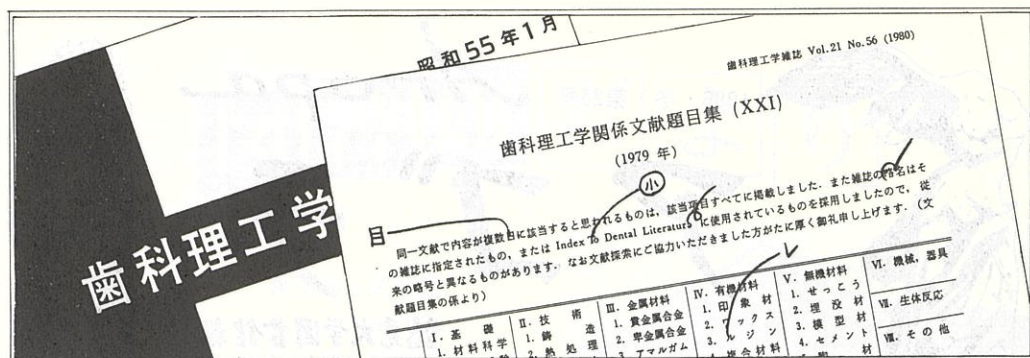
歯学部教授 平 澤 忠

図書館のIさんからアゴラに記事を書くように依頼を受けていたが、関係する資料の準備もしないでいるうちに、締切日が迫ってきた。図書館といえば一般に完成した書籍を利用することが本来の目的であるが、書籍も誰かによって書かれたものを編集、作製の過程を経て完成されるものであることを忘れてはならないだろう。私はかつて自分の所属する小さな学会の学術雑誌を編集したことがあるが、今回はそれにまつわる思い出を語ることでお許し願いたい。

今から10年ほど前のことである。公私共に親しくさせて頂いたT大学のM教授から、“今度学会誌の編集を誰かにやってもらおうと

せんか”と依頼された。彼は雑誌の編集にかけては自他共に許すほどのベテランで、歯科理工学雑誌の生みの親であり、格調の高い雑誌に育て上げた方である。この方の後の編集を維持してゆくのは大変だなあと思ったが、何事も経験と思い直して引き受けることにした。

この雑誌は元来、会員から寄せられた原著論文を収録することを目的とした学会誌であるので、最初は集まった論文を適当にまとめて雑誌にすればよいだろう位に考えていたが、実は編集の仕方によってその雑誌の内容と品位が大きく左右されることが、編集の実務に携わってはじめて実感として理解できた。



当初はM教授と印刷所のK氏に手取り足取りして編集方法を教えて頂いたが、M教授の編集に対する熱意と責任感は大変なもので、些細なことにも目を配って編集される態度に敬服し、教えられることが多かった。彼はいつも“編集する人が誠意と情熱をもってやらなければよい雑誌はできませんよ”といっておられた。彼は会員から投稿された原稿を速やかに査読し、各論文の内容と図表のチェックポイントを丁寧に調べておいて編集会議に臨まれたので、会議はきわめて円滑に進んだと聞いている。私も彼のよい面を踏襲すべく努力して編集に専念したが、真面目にすればするほど時間と労力を必要とする仕事であることを実感した。今では雑誌の読者の立場から、また論文の投稿者の立場から編集される方々に感謝する次第である。

この編集の仕事は4年間続いたが、これにちなんで思い出されることがいくつかある。

雑誌を含めて書籍は著者の書いた内容を正確に表現しなければならないから、誤植や文の初歩的な間違いは書籍の品位と価値を問われることになる。文の基本となる送りや当用漢字の使い方は内閣の告示決定に従って極力校正するように努力したが、こういう基本的なことに無頓着な方もかなり多いことがわかった。共同研究者として名を連ねた有名教授の論文にもお弟子さんに任せきりで論文に目を通さずに投稿されたと思われるものも時折見られた。対岸の火事とせず、謙虚に我

が身を反省すべしと思った次第である。

学術用語については、その専門分野で使用する術語に統一することが望ましいことはいうまでもない。しかし、この雑誌発行の母体である歯科理工学会では学術用語の統一がなされていなかったために、いろいろ不都合なことに直面した。例えば、材料の硬軟の尺度を表わす術語を例にとりて説明してみよう。以前は多くの専門分野で“硬度”という術語が使用されていたが、漢字制限の意味合いから使用されなくなった。現在では“katasa”と発音する言葉が使用されているが、専門分野によって書き表わす文字が異なっている。ちなみに文部省から出されている学術用語集を調べてみた。それによると機械工学と物理学では平仮名で“かたさ”、採鉱や金属学では片仮名で“カタサ”、化学では漢字で“硬さ”となっていた。発音は“katasa”で同一であるが、文字の表現は3通り。各専門の学会の用語委員会が横の連絡なしに決定した弊害とでも言うべきか。M教授は機械工学の出身であったので“かたさ”に統一された。さて化学の出身の私が“硬さ”を使ったら統一性がなくなってしまう。このような必要性が生じたので歯科理工学分野で使用されている同義で異なる術語を洗い出してみたが、あまりにも数の多いのにびっくりして、当時学会当局に学術用語の統一を要望したことを記憶している。しかし、未だに実行されていないのが残念である。

一般に科学論文に図表はつきものである。表はよほど複雑でない限り、印刷所の方で組版にしてしまうので、比較的編集の手を煩わさずに済むが、図の方はそのようにはいかない。投稿された原稿の中にはそのまま版下として使用するにはあまりにもお粗末なものもある。文字の大きさ、線の太さ、構図などを点検して版下に不相当と思われるものは著者に返却して、再提出を願うわけである。このことが、しばしば雑誌の発行を遅らせる原因となるので、編集側として最も気をを使うところである。そこでM教授の頃から会員に図面の作製指導をするとともに、トレースや写植の斡旋を積極的に行なってきた。トレースを依頼する場合に限って鉛筆書きを認め、図面の線を自分でトレースし、文字の写植だけを依頼することも認めた。このことが会員に徹底して利用者の数も増し、結果として編集業務の省力化に役立ち、誌面が体裁よく綺麗に仕上がるようになった。

歯科理工学雑誌は毎巻の最終号に歯科理工学関係文献題目集を掲載している。前年度発行された内外の雑誌の中から文献を検索し、その題目、著者、雑誌名、巻号、年号、頁を所定の分類に従って分けて集録したものである。この作業はかなりの時間と労力を必要とするので編集側だけでは無理である。そこで全国の歯科大学の歯科理工学教室に協力を依頼し、分担して検索作業を進めてゆく。ちなみに1980年度の検索対象とした雑誌は国内と国外を合せて約80種類、集録された文献数は約800編に及んだ。

必要な項目を記入した所定のカードが7月中旬位まで各大学から送られてくる。たまたま依頼した雑誌が製本中などの理由で検索できなかった場合には、仕方なく私がその後始末をすることになる。そうすると私の図書館通いの頻度が高くなる。幸いにも本学図書館には比較的多い歯学関係雑誌が備わっているので大抵は学内で用が足りた。

カードが全部集まったところで、分類作業に入るが、ここで分類の再チェックをする。題目だけで分類の可否を見分けるわけであるが、疑わしいものは再度雑誌を読み直してみなければならないので、また図書館に足を運ぶ回数が多くなる。

分類の終わったカードは必要な部分を切り取って、項目ごとに紙に張りつけて原稿を作ってゆく。つぎに校正の作業に進むが、これもかなりの時間を要する。どうしても夏休みの比較的暇な時期に行なうことになる。このような手順を経て文献題目集が出来上がるわけである。この題目集は非常に評判がよく、会員は勿論のこと会員外の人からも喜んで利用されるようになった。編集者として大変うれしいことである。

最近ではますます増加する膨大な数の文献の中から、迅速かつ能率的に文献を検索する手段として、各論文につけた数個のキー・ワードをコンピューターに記録させておき、必要とする文献をそのキー・ワードによって検索する方法が開発され、実用化の段階に入った。この方法によれば確かに文献検索に費やす労力と時間は大幅に縮小される。ただキー・ワードによって文献の検索を行なうとき予期しなかった内容の文献も拾い出してしまう可能性があると言われている。これは著者の主観で付けたキー・ワードによって検索された文献内容が、検索者の期待する文献内容と一致しなかったために起こる問題である。このようなことは今後技術的に十分改善されることであるから、キー・ワードによる文献検索は一般化され、ますます汎用されることは時間の問題であろう。

この歯科理工学文献題目集は、現在もなお継続して毎年雑誌に掲載されている。おそらくキー・ワードにより検索された文献が検索者の要求を十分満たしてくれるまでは将来もこの題目集の集録は継続されてゆくことであろう。

貴重資料紹介 そのX

古医書に見る医学史

日本人がはじめてヨーロッパ人に接し、その文化に触れたのは、天文12年（1543）8月、ポルトガル人が種子島に漂着したときのことであった。このとき以来ポルトガルから貿易船が来訪するようになり、それに伴ってキリシタン（南蛮）医学が伝来した。

オランダとの交渉が始まったのは慶長5年（1600）豊後の臼杵湾にオランダ船リーフデ号が漂着してからである。江戸幕府は寛永18年（1641）長崎の出島にオランダ商館を設け、商館を通じてオランダとの貿易を許可した。

オランダ商館にはカピタン（商館長）に随行する医師がいた。ヨーロッパの医学はこの医師たちを通じて紹介されたのである。



1. 解体新書 序図の扉と巻之1-4の表紙

はじめ、オランダ人医師について西洋医学を学んだ日本人は商館に出入りする通詞たちであった。彼等の中には西洋医学の著書（主として外科）を出版した人々もいた。

通詞たちが蘭学の普及に貢献したことはいうまでもないが、江戸末期に蘭学が燎原の火のように広まって、我国の医学は勿論、文化や政治にまで決定的な影響を与えるきっかけとなったのは、杉田玄白らの訳になる「解体新書」の出版であった。

5 西洋医学（蘭学）1

歯学部非常勤講師 戸出 一郎

「解体新書」は安永3年（1774）8月、ドイツ人J.A.クルムスの著書の蘭訳本 *Ontleedkundige tafelen* (*Anatomische Tafellen*) を杉田玄白、前野良沢、中川淳庵などが翻刻出版したもので、日本最初の本格的解剖書である。本書は単に医学のみならず、文化に対してもはかり知れないほど大きな影響を与えた。これを契機として次々に西洋医学書が出版され、その数は江戸時代だけでも1,500部を越えるほどであった。

以下、江戸時代及び明治初期に出版された西洋医学書の中で本学所蔵本に解題を加える。

〔解剖学〕

1. 解体新書 4巻 序、図1巻5冊
關兒武思〔クルムス（独）〕撰 日古登
〔デイクテン（蘭）〕訳 杉田玄白重訳
中川淳庵校 安永3（1774）江戸
須原屋市兵衛刊
2. 西説医範提綱釈義 3巻1冊
宇田川榛斎訳述 諏訪士徳筆記 文化2
（1805）刊弘化2（1845）再刻 江戸
須原屋伊八等刊
数種類の西洋解剖書を集めて翻訳編纂した「遠西医範」の中から全身諸物の名称と機能の綱領をまとめて1巻としたもので、付図の「内象銅版図」は永田善吉（号亜欧堂）が作成した我国初の銅版解剖図であり、美術史上でも重要な資料とされている。
3. 医範提綱内象銅版図 折本1帖
宇田川榛斎訳述 〔亜欧堂田善銅版画〕
文化5（1808）序刊
4. 解体発蒙 4巻 附録1巻5冊
三谷撲（公器）著 文化10（1813）京



3. 医範提綱 扉

西村吉兵衛等刊

著者三谷は小野蘭山の弟子で漢蘭折衷派の人である。彼は享和2年(1802)に京都で行われた解剖の所見をもとにして本書を著した。掲載された解剖図は多色刷木版印刷で、その美しさは比類がない。

5. 全体新論 2巻2冊

合信〔ホブソン(英)〕 陳修堂(清)撰 安政4(1854) 京 勝村治右衛門等刊 清本翻刻

上海在住の英国人B.ホブソンが中国人の協力のもと、西洋の医書を参考にして成ったもので、解剖学、生理学を中心に医療全般についてその基本を述べている。漢文、訓点付。

6. 解体則 巻1-5、5冊

布斂吉〔プレッキ(奥)〕著 月施兒〔ゲシエル(蘭)〕訂 〔新宮涼庭重訳〕 江戸末期写(安政5年版の写) 3巻欠

7. 講筵筆記 40巻12冊

法湧列兒〔ホブレ(英)〕講述 奥山虎章 半井成質筆記 明治4(1871)序 山中市兵衛刊 海軍病院官版

8. 虞列伊氏解剖訓蒙図 折本2帖

虞列伊〔グレイ(英)著〕松村矩明訳 明治5(1872) 浅井吉兵衛刊(活版) 啓蒙義舍蔵版

9. 全体新論訳解 3巻3冊

合信〔ホブソン(英)〕著 石黒厚訳 明治7(1874) 東京 北島茂兵衛等刊 「全体新論」の和訳本。

10. 解剖摘要 7巻7冊

尼兒〔ニール(米)〕 私密斯〔スミス(米)〕著 松村矩明口述 高木玄真綴録 明治9(1876) 大阪 高木玄真刊

11. 普俵氏組織学附録図解 洋本1冊

フライ(独)著 三浦省軒 長谷川順次郎訳 明治12(1879) 東京 島村利助刊(活版) 養源堂蔵版



4. 解体發蒙 見返と序

〔生理学〕

12. 利攝蘭度人身竊理 3巻3冊

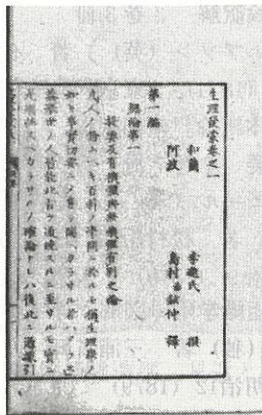
利攝蘭度〔リセランド(仏)〕著 越爾百許謨〔エルベキウム(蘭)〕訳 広瀬恭(元恭)再訳 安政2(1855)刊同3(1856)再版 京 天王寺屋市郎兵衛等刊 時習堂蔵版

仏人リセランド著「新人体生理学要綱」第9版(1826)の訳。全30巻刊行の予定であったが3巻(誘導編)のみ刊行。

13. 生理發蒙 13巻 図式1巻14冊

李逸〔リバック(蘭)〕撰 島村鼎甫訳 慶応2(1866) 江戸 須原屋伊八刊

本邦初の完備した系統的生理学書で、本書によりはじめて我国に生理学が知られるようになった。生物電気発生記述



13. 生理發蒙 卷之1 卷首

は本書が最初である。

14. 初学人身竊理 2巻2冊

カットル (米) 著 松山棟庵 森下岩楠
訳 明治6 (1873) 刊同9 (1876) 再版
同14 (1881) 後印 東京 慶応義塾出版
社刊

人体の解剖・生理・衛生を簡略に述ぶ。

15. 生理新論 4巻4冊

越爾墨連士〔エルメレンス (蘭)〕口授
松村矩明訳・筆録 明治9 (1876)
大阪 松村九兵衛刊

エルメレンスは明治3年、大阪医学校の指導教官としてオランダから招聘され、同校で生理学・薬物学・原病学・外科学の講義をした。本書は彼が講義した人体生理学の訳述である。膵液中にパンクリンという一種の蛋白質が含有され、澱粉を糖化し、また脂油質を細分したエミユルジュンに変化させることなど斬新な学説が紹介されている。

16. 小学必読生理問答 3巻3冊

松尾耕三纂著 高橋正純訂正 明治11
(1878) 大阪 柳原喜兵衛刊

17. 生理提要附録 3巻3冊

達兒頓〔ホクスレー (米)〕著 生田安
宅鈔訳 小林義直校閲 明治12 (1879)
岡山 生田安宅刊

18. 達爾頓氏生理書 9巻9冊

達爾頓〔ダルトン (米)〕著 物部誠一
郎訳 明治14 (1881) 大阪 松村九兵
衛刊

〔病理学〕

19. 病因精義 10巻10冊

小森桃塢講述 文政10 (1827) 京
吉田屋治兵衛刊

20. 病学通論 3巻1冊

緒方洪庵訳述 嘉永2 (1849) 江戸
須原屋伊八等刊

病学通理とは Allgemeine Pathologie
の訳語で、それまで原病学と呼ばれてい
たものを病学と改めた。本書は洪庵がフ
ーヘランド、コンスブリュック、ハルト
マンなど多くの病理学書を総合して病理
学総論を述べたものである。



20. 病学通論 見返と序

21. 病因略論 2巻2冊

満斯歇兒篤〔マンスフェルト (蘭)〕講
義 門人筆記 塩谷退蔵 志村養朴校正
明治4 (1871) 序 東京 島村屋利助
須原屋伊八刊 (木活字版)

22. 原病学通論 9巻9冊

亜爾蔑聯斯〔エルメレンス (蘭)〕講義
村治重厚等記聞 明治7 (1874) 東京
和泉屋市兵衛刊 三友舎蔵版

エルメレンスの講義中最も名高いもの
で、講義中に「ウィルヒョウの細胞病理

学」の語はないが、既に液体病理学ではなく細胞病理学の上に立っている。研究方法として顕微鏡が導入されていて、我国における細胞病理学・病原微生物学の草わけである。本書は病理学にとどまらず、診断・治療にまで及んで述べられている。

23. 病理新説 (図式) 洋本 1 冊

虞里応〔グリオ (英)〕著 桑田衡平訳
明治 9 (1876) 刊 (活版) 桑田衡平蔵版

〔診断学・治療学〕

24. 西医略論 卷上、中、3 冊

合信〔ホブソン (英)〕管茂材 (清) 撰
安政 5 (1858) 江戸 万屋兵四郎 刊 桃樹園三宅氏蔵版 卷下欠

25. 診法要略 3 卷 3 冊

佐々木師与著 明治 5 (1872) 序 東京 島村利助刊

26. 対症弁明 1 卷 1 冊

遠藤周民著 林紀 横井信之関 明治 11 (1878) 東京 島村利助刊

27. 理学的打聴診論 3 卷 3 冊

パウル・ニーマイル (独) 著 桜井郁二郎訳 明治 13 (1880) 東京 島村利助刊 倚雲楼蔵版

28. 検尿要訣 1 卷 1 冊

足立寛訳述 〔明治初期〕 東京 島村屋利助 須原屋伊八刊 (木活字版) 文部省官版

〔内科学〕

29. 増補重訂内科撰要 卷 1 - 12、12 冊

玉函涅斯垓我爾德兒〔ヨハネス・デ・ゴルテル (蘭)〕著 宇田川玄隋 (榕庵) 訳 宇田川玄真 (榛斎) 校註 藤井方亭 増訳 文政 9 (1826) 京 吉田屋治兵衛等刊 6 卷欠
オランダ人ゴルテル著「簡明治療術書」



29. 増補重訂内科撰要 卷 1 卷首と刊記

(1744) を訳述した我国における最初の西洋内科書で、初版は寛政 5 年 (1792) に出版された。はじめて西洋内科を紹介し、その普及に資せんとしたことは、我国内科史上画期的なことである。本書は榕庵の養嗣玄真が原書 1773 年版によって校註し、門人藤井方亭が増訳したもので、広く世に行われた。

30. 校正蘭方枢機 5 卷 5 冊

蒲剛〔ブカン (英)〕撰 小森啓 (桃塢) 翻訳 池田冬蔵刪修 辻岡東庵参訂 文化 14 (1817) 江戸 須原屋茂兵衛等刊
英人ブカン著「家庭医学」の蘭訳改補版 (1780) の抄訳。原書の蘭訳者、著者の序、序章及び本文第 1 章も訳されてないが、題言に多くの蘭薬の代用薬が掲げられていて、蘭方内科医のための臨床上の配慮がなされている。

31. 泰西方鑑 5 卷 5 冊

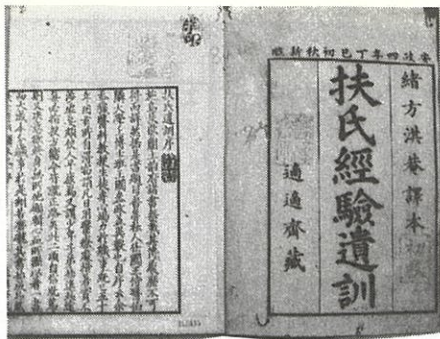
小森桃塢著 文政 13 - 天保 5 (1830 - 1834) 京 吉田屋治兵衛等刊

32. 医療正始 卷 1 - 21、19 冊

毘斯骨夫〔ビスコット (独)〕著 越而実幾〔エルジッキ (蘭)〕訳 伊東玄朴 重訳 天保 6 - 弘化 4 (1835 - 1847) 江戸 須原屋伊八等刊

33. 扶氏経験遺訓 25 卷 薬方編 2 卷 附録 3 卷 28 冊

扶歇蘭土〔フーヘランド (独)〕著 華



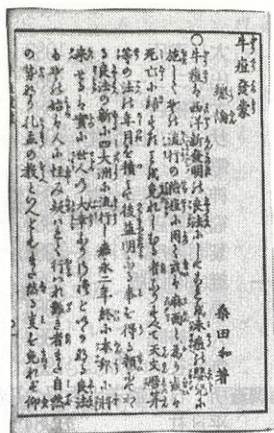
33. 扶氏經驗遺訓 見返と序

- 傑満〔ハーゲマン (蘭)〕訳 緒方公裁 (洪庵) 緒方子文重訳 安政4 (1857) 大阪 秋田屋太右衛門等刊 適適齋蔵版
ベルリン大学教授フーヘランドの名著 Enchiridion Medicum (1836) のハーゲマン蘭訳本から実際篇 (Praxis) を翻訳したもの。従来の訳書より一段と精確かつ明晰で、我国の西洋内科は本書によりはじめて大成した。
34. 内科新説 2巻3冊
合信〔ホブソン (英)〕 管茂材 (清) 撰 安政6 (1859) 江戸 万屋兵四郎刊 桃樹園三宅氏蔵版
35. 遠西方彙 巻1-9、9冊
安頓〔アントン (独)〕著 婪婆都〔ラムボウツ (蘭)〕訳 伊東貫斎重訳 文久3 (1863) 江戸 和泉屋吉兵衛刊 21巻欠
36. 西医日用方 6巻6冊
中川明甫 (淡斎) 輯 元治元-慶応2 (1864-1866) 跋 大阪 秋田屋太右衛門等刊
37. 病院経験方府 2巻2冊
高橋正純輯 明治6 (1873) 大阪 松村九兵衛刊 日新亭蔵版
38. 丹氏医療大成 巻1-4、4冊
丹寧兒〔タンネル (英)〕著 坪井為春 石井信義訳 明治8-9 (1875-1876) 東京 丸屋善七等刊 有欠
39. 対症方選 3巻3冊
高橋正純著 明治8-9 (1875-1876) 京 藤井孫兵衛等刊
40. 内科簡明 14巻17冊
拮説〔クンツェ (独)〕撰 林洞海 石川桜所 石黒忠恵訳 明治9 (1876) 東京 島村利助刊
41. 華氏内科摘要 22巻22冊
ハルツホルン (米) 著 桑田衡平訳述 明治5-8 (1872-1875) 刊同9-12 (1876-1879) 再版 東京 山城屋佐兵衛等刊 巻9以降増訂版
42. 内科提綱 6巻6冊
悉密篤〔シュミット (独)〕撰 佐々木 東洋補訳 明治11 (1878) 東京 島村利助 瑞穂屋卯三郎刊
43. 日講記聞原病学各論 18巻18冊
越爾蔑唎斯〔エルメレンス (蘭)〕著 三瀬諸淵 高橋正純訳 岡沢貞一郎校 明治12 (1879) 大阪 高橋正純刊 大阪公立病院蔵版
明治6年3月以降、エルメレンスが講義した内科各論で、各疾病の病理・症候・予後・予防法・治法を記す。
44. 儒門医学 4巻4冊
海得蘭〔ヘットラント (英)〕撰 伝蘭雅 (英) 口訳 趙元益 (清) 筆述 太田雄寧点注 明治13 (1880) 序 東京 太田雄寧刊 (活版)
45. 脚氣新説 1巻1冊
亜听〔アツキン (英)〕著 長谷川泰訳 明治4 (1871) 見返 東京 島村利助刊
46. 安氏脚氣病説 洋本1冊
ウリアム・アンデルソン (英) 講述 豊住秀堅訳 明治11 (1878) 東京 山中市兵衛刊 (活版)
47. 脚氣論 1巻1冊
石黒忠恵著 明治11 (1878) 序 東京 島村利助等刊

〔伝染病学〕

48. 牛痘発蒙 1巻1冊

桑田和（立斎）著 嘉永2（1849）序刊
牛痘による痘瘡の予防を論じた最初の書で、人痘法と牛痘法を比較対照し、牛痘法がいかに優れた方法であることを明示したもの。



48. 牛痘発蒙 巻首

49. 虎狼痢治準 1巻1冊

緒方洪庵訳述 安政5（1858）跋刊
適齋蔵版

安政5年7月、長崎港に来訪した米艦ミシシッピ号乗組員にコレラが発生し、忽ち日本全国に広まり大流行となった。洪庵は直ちにポンペ、モスト、コンラジ、カンスタットなどの医書を抄訳し、自家意見を加えてこれを出版した。

50. 療疫新法 2巻2冊

思多樂蔑謁兒〔ストロメイエル（独）〕著 伊烏私屈拔夜爾篤〔イウスクハエルト（蘭）〕訳 緒方子文重訳 文久2（1862）大阪 河内屋新次郎刊（日新医事鈔第一帙） 独笑軒蔵版

51. 望扶斯新論 2巻1冊

普林篤〔フリント（米）〕著 松山棟庵訳述 明治元（1868）東京 島村利助刊

52. 虎烈刺論 1巻1冊

石黒忠恵訳述 明治4（1871）序 東京 島村利助 須原屋伊八刊（木活字版） 大学東校官版

53. 種痘龜鑑 1巻1冊

久我克明著 明治4（1871）跋 東京 島村利助 須原屋伊八刊（木活字版） 大学東校官版

54. 項髓疫説 1巻1冊

侃斯達篤〔カンスタット（独）〕著 依爾術曹〔イルジュツソー（蘭）〕訳 新宮涼民 新宮涼閣重訳 明治6（1873）京都 林芳兵衛等刊

55. 牛痘弁論 1巻1冊

林義衛纂述 田代基徳関 明治9（1876）序 東京 島村利助刊

56. 虎列刺病論 洋本1冊

謨安那公（仏）著 高松凌雲鈔訳纂集 明治12（1879）東京 松浦宏刊（活版）



49. 虎狼痢治準 見返と題言

57. 虎列刺予防の論解 1巻1冊

内務省社寺局・衛生局編 明治13（1880）東京 江島喜兵衛刊 内務省社寺局官版

58. 肺癆衛論 2巻2冊

伯涅土〔バーネット（英）〕著 長谷川泰訳 明治初期 東京 島村利助刊

59. 痢病論 1巻1冊 附録麻疹略論

石黒忠恵訳述 明治初期 東京 島村利助 須原屋伊八刊（木活字版） 大学東校官版

— 続く —

新刊アラカルト

書名 (叢書名)	著者	出版社	出版年	請求記号
《人文科学関係図書》				
知恵の樹を育てる 信州上郷図書館物語	是枝英子	大月書店	1983	016.2152-K
思い出の本	尾崎一雄ほか	出版ニュース社	1984	019.1-O
手製本を楽しむ	柄折久美子	大月書店	1984	022.57-T
人は本なしには生きられない 活字からのメッセージ 清水英夫		サイマル出版社	1984	023-S
日本の企業博物館		電通	1984	069.8-D
神奈川の作家 文化部記者20年の記録 (かめも文庫) 青木茂		神奈川合同出版	1984	K-A
博物紀行 神奈川県		福武書店	1984	K-H
手の宇宙誌 コスモロジー (黎明選書)	堀内守	黎明書房	1982	104-H
18世紀の唯物論者 安藤昌益の世界	ザットロフスキー	雄山閣出版	1982	121.89-A
魔術的ルネサンス エリザベス朝のオカルト哲学	F.A.イエイツ	晶文社	1984	132.3-Y
自然の光	パラケルスス	人文書院	1984	132.52-P
日本人とアイデンティティ 心理療法家の眼	河合隼雄	創元社	1984	140.4-K
日本人の宗教意識	NHK放送世論調査所	日本放送出版協会	1984	160.21-N
聖書伝説と粘土板文明 (江上波夫著作集)	江上波夫	平凡社	1984	208-E
花と日本文化 (西山松之助著作集)	西山松之助	吉川弘文館	1985	210.08-N
神々と義経の時代 (錦絵日本の歴史)	尾崎秀樹ほか	日本放送出版協会	1981	210.108-N
悲劇の王妃 壬申の乱の犠牲者十市皇女	若浜沙子	近代文藝社	1985	210.34-W
証言の昭和史 全12巻		学習研究社	1983	210.708-S
母と子でみる広島・長崎	朝日新聞企画部	草土文化	1983	210.75-A
バリ物語 (新潮選書)	宝木範義	新潮社	1984	235-T
不可触民の父 アンベードカルの生涯	D.ギール	三一書房	1983	289.2-K
つくり手たちとの時間 現代芸術の冒険	東野芳明	岩波書店	1984	702.8-T
視覚の瞬間 (叢書ウニベルシタス)	K.クラーク	法政大学出版局	1984	704-C
NHKグループ美術館 全7巻【刊行中】		日本放送出版協会	1985	708-N
昭和写真・全仕事シリーズ【刊行中】		朝日新聞社	1982	748-S
音楽グラフィック大事典 音楽をつくる人びと		音楽之友社	1985	762.803-U
舞踏に死す ミュージカルの女王・高木徳子	吉武輝子	文藝春秋	1985	772.1-T
女王陛下の興行師たち エリザベス朝演劇の光と影	玉泉八州男	芸立出版	1984	772.33-T
写真集歌舞伎十八番	林嘉吉	ぎょうせい	1985	774-H
文字の博物館 写植発明60周年記念出版		白水社	1984	801.1-S
英語再入門 読む・書く・聞く・話す	柴田徹士・藤井治彦	南雲堂	1985	830.7-S
欧米文学交流の諸様相	富田仁・長谷川勉	三修社	1983	901.9-T
二度生まれる 文学に現われた宗教的回心	石田憲次	あほろん社	1981	904-I
日本文学と仏教思想 (世界思想ゼミナール)	浜千代清・渡辺貞麿	世界思想社	1984	910.11-N
鹿鳴館の系譜 近代日本文芸史誌	磯田光一	文藝春秋	1983	910.26-I
「孤独」の構造 日本近代小説作品論集	社本武	桜楓社	1984	910.26-S
ふだん着の作家たち	森田正治	小学館	1984	910.268-M
鏡とエロスと 同時代文学論	清水徹	筑摩書房	1984	910.268-S
宮澤賢治 見者の文学	栗谷川虹	洋々社	1983	911.5-M35-K
源氏の恋文	尾崎左永子	求龍堂	1984	913.361-O
西洋の源氏 日本の源氏	E.G.サイデンスデッカー	笠間書院	1984	913.361-S
夏目漱石と菅虎雄 布衣禅情を楽しむ心友	原武哲	教育出版センター	1983	913.6-N74-H

書 名 (叢 書 名)	著 者	出 版 社	出版年	請求記号
坪田譲治作品の背景 ランプ芯会社にまつわる話	坪田理基男	理論社	1984	913.8-T14-T
平野謙論 文学における宿命と革命	中山和子	筑摩書房	1984	914.6-H21-N
百代の過客 日記にみる日本人 (朝日選書) 全2巻	ドナルド・キーン	朝日新聞社	1984	915-K
荆冠の愛 英文学襟記	池田正	北星堂書店	1983	930.14-I
新世界の文化エトス オーストラリアの場合	越智道雄	評論社	1984	930.8-O
英米児童文学読本	定松正・谷本誠剛	桐原書店	1982	930.8-S
シェイクスピア史劇	入江和生	研究社出版	1984	932.7-I
炎の美女革命家モード・ゴン	高田久壽	誠文堂新光社	1983	938.35-T
E. M. フォスターと「土地の霊」	筒井均	英宝社	1983	939.5-T
ロレンスの世界 熱烈な評価	H. ミラー	北星堂書店	1982	939.8-M
作品とアルバム of ヴァージニア・ウルフ	モニック・ナタン	南雲堂	1984	939.9-N
私ひとりの部屋 女性と小説	ヴァージニア・ウルフ	松香堂	1984	939.9-W
オーウェル紀行 スペイン編	甲斐苺	近代文藝社	1984	939.0-O8-K
人生の幻影 文学形式としてのアメリカ・リアリズム	H. H. コルブ	研究社出版	1984	930.23-K
アメリカ西部文学	J. K. フォルサム	篠崎書林	1984	930.64-F
ヨーロッパ詩とメルヒェンの旅	高橋健二	小学館	1983	940.4-T
フランス小説の世紀 その歴史的意味 (NHKブックス) 岡田直次		日本放送出版協会	1983	950.2-O

《社会科学関係図書》

大和魂と星条旗 (朝日選書)	K. T. トマス	朝日新聞社	1983	334.453-T
カリフォルニア・ナウ (中公新書)	石川好	中央公論社	1984	334.556-I
絵になる都市づくり (NHKブックス)	尾島俊雄	日本放送出版協会	1984	361.48-O
教育と笑いの復権	堀内守	玉川大学出版部	1985	370.4-H
日本の条件 教育	NHK取材班	日本放送出版協会	1983	372.1-N
私大777の未来 サバイバル時代に向けて		勁草書房	1984	377.21-S
みんなの手話の事典 (SUN LEXICA)	篠田三郎	三省堂	1985	378.28-M
世界子どもの歴史 全11巻【刊行中】		第一法規	1984	384.5-S
天気予知ことわざ辞典	大後美保	東京堂出版	1984	388.8103-T
世界旅行 民族の暮らし 全5巻		日本交通公社	1982	389-S

《自然科学関係図書》

神の意思の村度に発す (Lecture Books)	村上陽一郎・豊田有恒	朝日出版社	1985	402-M
科学者たちの自由な楽園 栄光の理科学研究所	宮田親平	文藝春秋	1983	407.6-M
星座をみる楽しみ (星の世界をたずねる)	寿岳潤・小林悦子	岩波書店	1984	443.8-J
いのちを考える 大阪大学開放講座より	三輪正ほか	メディカル葵出版	1983	461-I
ファール植物記	J. - H. ファール	平凡社	1984	471-F
動物の一生不思議事典 性・育児・教育・集団・「文化」 (SUN LEXICA)		三省堂	1983	481.78-M
鳥・鳥・鳥 そのエッセイ	浮田章一	笠間書院	1984	488-U
野鳥と文学 日・英・米の文学にあらわれる鳥	奥田夏子ほか	大修館書店	1982	488.049-Y
病の文化史 全2巻	M. サンドイユほか	リプロポート	1984	490.2-H
病気日本史 (雄山閣 BOOKS)	中島陽一郎	雄山閣出版	1982	490.21-N
京の医史跡探訪	杉立義一	思文閣出版	1984	490.21-S
ポップアップ ヒトのからだ 立体・人体構造図	J. ミラー・D. ペラム	ほるぷ出版	1984	491.1-M
働きざかりの歯の健康	本村静一	文園社	1985	D4-M
歯の健康と子どものからだ	落合靖一	築地書館	1984	D4-O
歯列矯正 歯の健康相談を含む	一色泰成・能美光房	ぎょうせい	1984	D55-I
〔公害〕の同時代史	宮本憲一	平凡社	1984	519.21-K
図説日本城廓史	日本城廓協会	新人物往来社	1984	521.82-Z
宇宙大航海時代 (新潮選書)	R. M. パワーズ	新潮社	1984	538.9-P

図書館だより

◎閉館日のお知らせ

1月31日(金)	歯学部入試準備
2月1日(土)	〃 入学試験
2月3日(火)	短大部入試準備
2月4日(水)	〃 入学試験
2月7日(金)	※文学部入試準備
2月8日(土)	※文学部入学試験
2月28日(金)	月末閉館日
3月6日(木)	※文学部入試準備
3月7日(金)	※文学部入学試験
3月15日(土)	卒業式
3月17日(月)	※館内整理
3月18日(火)	
3月31日(月)	月末閉館日
4月1日(火)	※オリエンテーション
4月2日(水)	
4月3日(木)	入学式
4月4日(金)	※オリエンテーション
4月8日(火)	

※印の期間、別館は開館します。

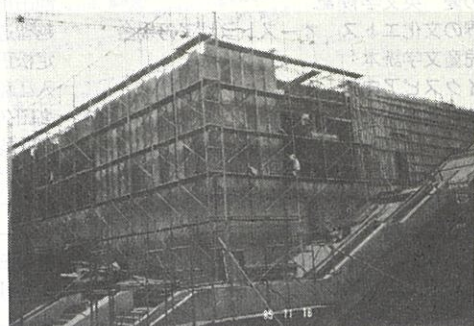
◎開館時間変更のお知らせ

2月5日(水)から4月8日(火)まで
開館時間を次のように短縮します。

平日 9:00~16:30

土曜日 9:00~13:00

なお、4月9日(水)より平常通りの
開館時間となります。



昭和60年11月18日撮影

新図書館建築進む!

昨年末には3階のコンクリート打ちも終わって、これで5層全ての躯体が完成した事になります。個人の住宅ですと棟上げに当るわけで、土砂を搬出する事から始まった永い基礎工事がこれで一応完了し、これからは外装、内装、設備、インテリア工事になります。既に白いタイルを貼られた講堂棟と共に、その偉容を現わす日もそう遠いことではありません。しかし本誌22号(1985・冬)で「昭和61年2月完成とお知らせしましたが、基礎工事の際天候が不順だった事もある、3ヶ月遅れて5月完成となりました。お詫び申し上げます。卒業される皆さんには在学中の利用は不可能となりましたが、同窓会報でいづれご案内したいと思います。是非来館下さいますようお待ちしております。

新年度は現在の場所で迎え、6月末から7月始めに引越作業をし、7月14日から一部開館(1階、2階のみ)、9月8日全面開館の予定です。乞ご期待!

アゴラ——鶴見大学図書館報—— 第26号 1986年1月10日発行

鶴見大学図書館発行(館長 池田利夫) 〒230横浜市鶴見区鶴見2-1-3 045-581-1001